

## 丁稚奉公から身を起こした和田昌信

すべての物事には必ず固有の歴史があります。ワダコーヒーも例外ではありません。その源流を遡ると、一九一八（大正七）年に創業者の和田昌信が名古屋市東区久屋町で開いた「和田珈琲店」に辿り着きます。

では、昌信はどのようないきさつで今日の礎を築いたのでしょうか。その手がかりを知るには時計の針を百年以上前に戻さねばなりません。

昌信は一八九五（明治二八）年十二月十一日、六人兄弟の三男として、農業を営む父文平、母はなの間に生まれました。実家は山梨県東山梨郡大藤村（現在の甲府市塩山）にありました。『にっこりえ』『たけくらべ』の作者として知られ、現在流通している五千円札の肖像でおなじみの樋口一葉はいとこにあたります。

兄弟のうち、長男恒貞は家業を継ぎ、次男守平は名古屋市東区東新町にあった「万平ホテル」の向かいで食料品店を営んでいました。守平の成功をきっかけに他の兄弟も故郷を後にします。

当時は長野と名古屋を結ぶ中央本線が全線開通する前夜の時期であり、名古屋は山梨県人にとって東京とは趣の違う魅力的な都会と映ったのでしょう。

三男の昌信は尋常高等小学校を終えると、守平を追うように名古屋への片道切符を買